

今村復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録  
(平成28年8月19日(金) 1710～1719 於) 飯舘村)

1. 発言要旨

どうも皆さん御苦労さまでございます。

今日は田村市からこちら周辺を回ってきたところでありまして。初めてのところもあったし、そしてまた何回か行ったところもあるということでありまして。

正直言って着実に進んでいるところもあるし、あるいは進んでいるところでもまだまだ残された課題があるところもある。そしてまた、刻一刻と状況は変わるわけですが、そういったものに対して、もう少し柔軟な対応もしていかなければいけないのではないかということを感じた次第であります。

是非これからも先頭を切って頑張っておられるところ、そういうところをしっかりと支援をしながら、そしてまた、そのトップランナーとしての役割がしっかりと果たせるように、課題を今日頂きましたので、そういったところをしっかりとフォローアップして、後に続く人たちの参考にも是非していきたいなというふうに思っております。

本当に皆さん方、大変な中でよく頑張っておられるなど、特に最後、飯舘村に来まして、村長さんの本当にじーんとくる話を聞きまして私も大変感動し、何としても我々もその力にならなければいけないという思いを新たにしたところでございます。

概観は以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今日、具体的に視察で寄せられた要望内容について伺いたかったんですが、視察を通して視察先で寄せられた要望内容を、一つ二つでもいいのでお願いします。

(答) 例えば、田村市では、住宅はそれなりに充実してきていますけれども、企業の人に住むための住宅、団地でもいいんですが、そういったことについては、なかなか国からそれに対応するようないところがないという話がありまして、これは、先ほど刻一刻変わると私は言いましたが、どういうことかということ、今まではどちらかということ、被災して目の前の緊急避難的な要素を第一にやってきましたと思うんです。それがある程度、今度はなりわいの再生、産業の再生、働き場の創成というときになったときに、ステージが少し前に行きますから、そういったところが、まだ遅れている、国の対応が追いつかないようなところもあるのではないかと

ことで、次へ次へと前へ前へと行くための仕組みを、考えなければいけないのではないかというふうに思った次第であります。

それから予算の関係はもちろん一般的にあります、概して今言いましたように、いろいろな仕組みを作ってやってきたことは評価してもらっていますが、これからも柔軟な対応といいますか、いろいろな状況に合わせた対応をしてもらいたいということが多かったというふうに思っております。

そんなところです。あともし必要であれば具体的に聞いてください。

(問) 先日の視察では原発周辺の市町村を視察されたと思うんですが、今日では避難解除された市町村が多かったと思うんですが、解除が終わった市町村を視察された結果、まだ進んでいない部分、課題として残っている部分というのは、どういうところを感じられたでしょうか。

(答) いろいろあると思えますけれども、例えば子供さんたちが帰ってくるのに、是非帰ってほしいんだけど、時間がたっても向こうの地域でお友達ができたらなかなか帰りたがらないとか、そういった問題があるなど、最後に飯舘の村長さんが言われたのは、子供が帰ってこないのは寂しいということで、そこをみんなで戻ろうよという雰囲気を出して、そしてまた、是非その受け皿づくりをしっかりとやっていこうじゃないかということ、強く感じました。

それと、あえてお話しさせていただくと、川内村の野菜工場は、大変おもしろいなと思えました。

先ほども言いましたように、これについてもなかなかいい話なんだけれども、電力代金が非常にコストのほうに占める上で高いと、それが何とかならんかというような話もあるんですが、そういったところについても、いろいろな再生エネルギー等々あると思えます。そういったところも使いながら何とか村おこしといいますか、職場づくりというものをしっかりと応援せんといかんなどということで、出てきた野菜を食べましたけれども、大変うまかったし、天山というおそば屋さんで、「これちょっと、バジルとそばとまぜたらどうだ」と言ったら、そこのおやじさんが「実は私もいろいろ考えております」ということで、トマトとソースをまぶしたのを出してこられましたけれども、「こんな山の中でイタリアンみたいなうまいそばだな」ということで食べました。そういう山ならではの、ここならではのいろいろな産業、なりわいを少しでも広げてやっていくことが、大事なのではないかというふうにも思ったところあります。

(問) 先ほど菅野村長と面会される中で、「じんとくる話もあった」

ということでしたけれども、具体的に面会の中で菅野村長からの要望でしたり、実情を訴える中で印象的に残っている部分があれば教えてください。

(答) 菅野村長の話の中で一番じんときたのは、自分たちの足で立っていくんだと、そんなに人にばかり頼っていても、やっぱりそれは限度がある。自分たちの村、ふるさととは自分たちで守るんだという、その気概といいますかそういったものが非常に高い。そしてさっき言ったように、子供が帰ってこなければいけないということで、幼・小・中の学校をつくる人間についてもちゃんと受けられるように、そういった仕組みづくりを、是非弾力的にやってくれという話が出ましたから、それはおっしゃるとおりで、本当にふるさとを思われる気持ちというのが各所に出ていまして、大変感動させていただきました。この感動をエネルギーにして、私もこれからまた更に頑張っていきたいというふうに思います。

(問) 帰還困難区域のお話とかもされたんでしょうか。

(答) いや、今日はその話は特には出ていません。

(問) 率直に、この交流センターは先週の土曜日に開館したばかりなんですけど、大臣から見まして率直な感想を、一言でもよろしいのでいただければと思うんですけども。

(答) 正直言ってすばらしいなと思います。飯舘村は実は私も印象が強いんです。よく皆さんマスコミで飯舘村と、どういうところかなと思って来ました。そうしたらふるさと納税の話もされましたけれども、おそらく全国で、飯舘村というものについては興味・関心を持っておられると思います。だからいろいろなイベントをここでやって、この場所をうまく使うということ、更に今後考えてもらえれば面白いのではないかというふうに思います。

(以 上)